

第1回基本構想審議会における主な意見の整理(概要)

1 まちづくり

杉並区は、東西に比べ南北方向の交通が不便であり、この課題解決に向けて取り組む必要がある。

より住みよいまちにするため、駅周辺の美化や再開発を進める必要がある。

商業、文化・教育、福祉・医療など様々な面で、区全体でバランスのとれたまちの発展に向けた取組を進めていくことが重要。

今後は、都市部にあっても、「ふるさと」をつくる視点でのまちづくりが必要になってくる。

これからの地域のまちづくりをどうしていくのか、各地域や町会等を含めたシステム化等を図っていく必要がある。

基本構想には、高齢化を逆手にとった地域活力の創出というような、夢のある内容を盛り込んでいくことも必要。

2 産業

高円寺では、「座・高円寺」ができたことで、地域と商店街の新たなつながりができ、交流が進んでいる。今後も、このようなつながりと交流による地域の活性化を進めるべきである。

商店街がもっとにぎやかになって、買い物の利便性が向上するとよい。

3 環境

区内の農地や林などは、このままでは、数十年後には半減あるいは3分の1に減ってしまう恐れがある。

現在の基本構想の「水辺とみどりの豊かな杉並」というコンセプトは、これからも重要な要素になると思う。また、「産業や経済のグリーン化」についても引き継いでいく必要がある。

これまで築き上げられてきた社会資源である杉並の人、文化、自然を大切にし、エコで活力あるまちづくりを進めていくべき。

4 福祉

障害者自身、そして介護者の高齢化が進む中で、相互かつ全体で助け合う地域社会をつくっていく必要がある。

一人ひとりの多様な個性と特性を認め合うノーマライゼーションのまちをつくっていくべき。

高齢化が進む中で、介護者を支援する仕組みを整える必要がある。例えば、専門のNPOと区が協働して、介護者の悩みや相談対応を聴き、解決策を考えていってはどうか。

5 医療

杉並区は、近隣自治体に比較して医療資源が少ないと思う。その意味で、高齢者医療、高齢者介護のネットワーク化を図るなどの対応策が必要。

医療にしても介護にしても、これからは、専門施設の充実を図るだけでなく、話し相手のボランティアなどの支え合いの仕組みが求められる。

これからは、もっと予防医療という点に目を向け、医療費の削減等を図る必要がある。

6 教育

10年後に、今の子どもたちが、自ら考え積極的に地域に参加するような、自主性のある区民となるよう育てていくことが重要。

地域の子どもと高齢者が一緒に活動できる場を設けて、何かを共有することができるような取組を進めたい。

7 子育て

働く母親が地域の中で不安なく生活できるように、相互に話し合う場を設けるなどのサポートできるシステムができるとよい。

8 文化・スポーツ

これまでの文化・芸術施策は、抽象的なことが多く、あるいは芸術家を保護する形が多かったが、時代の変化を踏まえた新しい文化・芸術施策のビジョンを検討していきたい。

高齢社会にあっては、いかに健康で生きがいを持って暮らしていくかが大事であり、そのためにはスポーツ環境の充実が必要。

9 その他

現在の基本構想の下での取組について、何ができて何ができなかったのか確認する必要がある。

行財政改革の推進や財政規律の確保については、引き続き取り組んでいくべきテーマである。基本構想づくりにあたっては、区民参加の実践の場となるような進め方が望ましい。

これからの時代は、協働の地域社会づくりがより重要なテーマとなる。また、時代の変化を踏まえて、区の役割を明確化することも必要。

基本構想では、一生を杉並で過ごし、そこで終えたいと思えるようなビジョン、区民等との共通の目標として提示できるとよい。一方で、経営感覚のある構想とすることが重要。

高齢化の進展等の中で、様々な課題を抱えている方を区全体できちんと支えていくためには、余裕のある人がそれなりのチャリティーをする必要があるのではないかと。